

A. コースワークの充実・強化

③国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等による教育課程の充実

●東京工業大学 情報理工学研究科計算工学専攻

「情報学と生命医学の発展的融合教育の新展開」の事例 <理工農系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

東京医科歯科大学と東京工業大学の間で、大学院の単位互換協定を締結した。しかしダブルディグリーの実現を目指し、検討および文科省との相談を行ったが、制度的な縛りがあり、実現は困難であった。

苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

ここで言うダブルディグリーとはメジャー+メジャーの二つの分野で博士号を得ることであるが、単位互換制度で認められる他大学の単位数の上限は10単位であること、学生の2重学籍が認められないこと、および共同大学院の制度は、単一学位を対象としているなどから、これらの制度が改革されない限り、ダブルメジャーのダブルディグリー制度を単科大学同士で実現することは不可能であることが分かった。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

大学改革の動きの中で、これらの問題点は把握検討されていたが、国立大学の制度改革が追いつくことができなかった。今後とも、大学の教育制度の改革に合わせて検討を続けてゆく。学生側からの意見としては、ダブルディグリーは、倍の努力をしても報われる制度であるので、是非実現して欲しいとの声がある。

A. コースワークの充実・強化

③国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等による教育課程の充実

●事例3

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

大学院教育の実質化と国際化を進めるために韓国の大学との連携を強化し、韓国内の複数の大学において短期研修を実施したが、本学の修士教育プログラムとの単位互換制度の導入が困難であった。

苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

- ・韓国における類似するプログラムが学士と社会人対象のプログラムに特化したものが多く、大学院課程レベルにおいて類似するプログラムを実施する大学が少なかった。
- ・短期研修では、韓国語の日本語通訳による授業が中心となり、英語による教育プログラムを実施できなかったため、単位互換を含む教育システムの構築が出来なかった。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

本教育プログラムの国際化の意義は極めて大きいものであるが、類似する教育プログラムを実施している韓国との大学に限らず、MBAやMOT教育で実績のあるアメリカ合衆国を含む英語圏の大学との単位互換を含む連携を視野に進める必要性がある。